

# 研修参加報告書

令和4年5月30日

会 派 名 江南藤クラブ  
代 表 者 大藪 豊数

(参加者： 大藪 豊数 )  
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和4年5月18日(水)～19日(木)
研修時間	1日目 13:00～17:00      2日目 9:25～15:00
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (J I A M)
研修内容	第1回 自治体決算の基本と実践 ～行政評価を活用した決算審査～  【講義】自治体決算の意義と審査のポイント 武庫川女子大学 経営学部 教授 金崎健太郎 氏  【講義・実習】行政評価等を活用した決算審査 静岡県立大学 経営情報学部 教授 小西敦 氏

# 研修参加報告書

年月日	令和4年5月18日(水)～19日(木)
研修時間	1日目 13:00～17:00      2日目 9:25～15:00
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	<p>第1回 自治体決算の基本と実践 ～行政評価を活用した決算審査～</p> <p>【講義1】自治体決算の意義と審査のポイント 武庫川女子大学 経営学部 教授 金崎健太郎 氏</p> <p>【講義・実習2】行政評価等を活用した決算審査 静岡県立大学 経営情報学部 教授 小西敦 氏</p>
■目的	<p>行政がお金を使ったかどうかは決算資料で分かるが、成果を上げたかどうかは決算書だけでは分からない。そこで出てくるのが行政評価である。</p> <p>成果を評価するのは実に難しい。行政評価で成果がどれくらいあったかを見るための学習をする。</p> <p>税金の使われ方の監視機能が議会であるので、行政評価をするセンスを議員が磨くための実践を含めた研修を行う。</p>

## ■内容

令和4年5月18日（水） 13時00分～17時00分

### ○テーマ1 自治体決算の基本と実践

自治体にとって決算とはどういうものか、決算を審査するときのポイントとは。

#### ・自治体決算の意義と役割

一般企業ではいくら利益が出たかが企業会計のすべてであり、予算よりも決算が重要視されるが、自治体の決算はまったく意味が異なる。

お金をいくら稼いだかは関係がなく、自治体にとって予算が最も大切であり、行政サービスは予算によって何をするかを決めていくため、予算重視である。

お金儲けではなく、何の仕事をするかが大切である。

議会は可決した予算が確実に執行されたかどうかを確認し、予算の時に可決された金額が正しく使われ、効果を出したかが大切であり、議会は決算を認定か不認定しかできない。

予算の時は、可決・否決の他に修正ができるが、決算は、議会としての意志を示すことしかできない。

決算は2年前の決算をしており、次の年の予算に反映されるため、決算の議論が予算につながることはなかなか難しい。

決算書は予算に対する結果の資料であるが、歳入歳出事項別明細書はさらに細かいところをチェックできる。

#### ・実質収支は赤字か黒字かである。

・主要な施策の成果を説明する書類 → 予算通り仕事ができたとかが記載されている。

#### ・決算書の書式は決まっているので、どこの自治体でも同一である。

#### ・不用額の2つの意味については、

支出を節約できた。 → ほめてあげる。

道路を作るため予算を10億計上したが、地権者の問題で道路ができず、結局設計費だけで終わった。 → これは問題視する。

・不用額の2つの減少 → 年度中にできない事が分かったら、補正予算に諮るべきであり、そうすれば決算には出てこない。

・支出負担行為は3月末までに済ませておき、支払いは5月末までにする

・決算の数値は各自治体で出した後、国でまとめている。

### 【標準財政規模】

・その自治体の標準的な一般財源の総額であり、また、この標準財政規模が分母になり、歳入と歳出のバランスの程度をみるものが実質収支比率である。

・実質収支はほとんど黒字になるが、黒字を増やせばいいものではなく、黒字が多いと言うことは話し合われなかった予算があったということである。

#### 【単年度収支】

- ・ 去年は5億円の黒字だったが、今年は1億円の黒字だった。
- ・ 実質単年度収支が赤字になったり黒字になったりすることはあるが、赤字がずっと続くと危険である。

#### 【財政力指数】

- ・ 数値が高いほど自治体がお金持ち → 必ずしもそうでもない。
- ・ 自治体が自分で稼ぐ力がどれくらいあるかを表す数値であり、地方交付税に関するものでもある。

#### 【経常収支比率】

- ・ 経常的な収入である一般財源のうちどの程度経常的経費にとられているか。

経常的経費・・・毎年必ず決まって出ていく経費

臨時的経費・・・支出に規則性のない経費

#### 【健全化判断比率とは下記の4つの財政指標】

1. 実質赤字比率・・・一般会計等の赤字の大きさを、その団体の財政規模に対する割合で表したものの。
2. 連結実質赤字比率・・・全会計の赤字の大きさを、その団体の財政規模に対する割合で表したものの。
3. 実質交際費比率・・・実質的な借金返済額の大きさを、その団体の財政規模に対する割合で表したものの。
4. 将来負担比率・・・一般会計等の借入金や、第3セクター等まで含めた将来支払っていく可能性のある負担額の大きさを、その団体の財政規模に対する割合で表したものの。

夕張市の一般会計は健全だったが、特別会計や第三セクターからお金を借りていた。

#### 【実質公債費比率】

- ・ 実質的な借金返済額の大きさを、その団体の財政規模に対する割合で表したものの。
- ・ 公債費とは、借金を返すためのお金。

#### 【将来負担比率】

- ・ 将来負担額・・・いずれ返さなければならない借金の額

～閑話休題～

財政について一般市民に説明しにくいのは・・・

- ①言葉が分かりにくい
- ②基準が分かりづらい

以上この2点である。

- ・ 健全化判断比率は決まっている。
- ・ 一般会計からお金を繰り出した後の資金不足
- ・ 西宮市は概要説明資料を作って市民に公開している。
- ・ 民生費・総務費の歳出が増えている

### 【義務的経費】

・三大義務的経費 人件費・扶助費・公債費。これが増えてくると、どんどん首が締まってくる。

### 【財政調整基金】

・減債基金・・・合併特例債とか交付税措置

### 【市債の状況】

・財政力指数・・・稼ぐ力

お金を使ったかどうかは決算資料で分かるが、成果を上げたかどうかは決算書だけでは分からないため、そこで出てくるのが行政評価である。成果を評価するのは実に難しいので、行政評価で成果がどれくらいでたかを見ていくべきである。

行政が借金できるのは、モノを作るときか、臨時財政対策債しかできない。

臨時財政対策債は、地方財政収支の不足額を補てんするため、各地方公共団体が特例として発行してきた地方債である。その元利償還金相当額については、全額を後年度地方交付税の基準財政需要額に算入することとされ、各地方公共団体の財政運営に支障が生ずることのないよう措置されている。

## ■内容

令和4年5月19日 9時25分～15時00分

### ○テーマ2 行政評価等を活用した決算審査

行政評価等を議員としてどう活用するか→自身の考えを確認しつつ、理解を深め、行動へ・・・

### ●自治体決算の基本と実践

～行政評価と活用した決算審査～

- ・行政評価をするかしないかは自治体の自由である。
- ・法律にはどこにも書いていない、やってもやらなくても良い！
- ・評価制度の設計も自由である。

### 【評価主体】

- ・自己評価が主流。
- ・外部評価→議会の位置づけがポイントである。

### 【法的根拠】

- ・条例で定める以外は無い。

### 【目的】

- ・説明責任の徹底・行政の質や効率性の向上・成果重視への転換など

### 【レベル】

- ・事務事業、施策、政策

### 【観点】

- ・必要性、有効性など

### 【密接関連事項】

- ・地方創生、EBPMなど

#### ○EBPM（ビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング証拠に基づく政策立案）

・政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする。

- ・評価主体は、政策実施への影響の大小及び政策効果の影響の大小で判断。
- ・議会としては両項目とも「中間よりも少し上」にあると良いと思われる。
- ・政策の目的に照らし合わせて政策が必要かが大切という意味。
- ・有効性は政策を行った先にある。
- ・観点によってはバッティングしかねない。
- ・有効性と合規性がその代表。例：真夜中の赤信号で必ず止まる。

- ・EBPM 赤字の意味を考える↓
- ・重たい話であり、議員にも関わる。

例えば、感染症対策としてコロナと全然関係のない車を更新した。これを会計検査員・マスコミがどう見るか？その前に議会でちゃんと点検しているか？ここが議会の要を問われる部分である。

理解が得られるかどうか大切であり、クレベリンなどある時点を境にして効果がある・なしの消費者庁などの判断が出た場合、メーカーが認めた段階ではアウトであろう。

### 【議会の影響力】

- ・あまりなかったが過半数、『総合戦略』の立案における議会の影響力。

#### ○参考市の事例

- ・3つのチェック体制

#### 《決算特別委員会》

決算審査の対象となる前年度の決算を総括的に審査を行う。併せて、市民目線に立ち、事業に無駄がないか、市民サービスが向上しているかどうかを主眼に、市の主要な事業について、その成果や課題を整理し、施策の評価を行っている。

また、この施策の評価を踏まえ、市民の意思を的確に次年度予算へ反映することができるよう、次年度の予算編成及び施策（事業）の実施に向けた執行部への提言を行っている。

→事業評価の対象事業の抽出は、執行機関のお膳立てではなく決算特別委員会を設置し、議員10人が決めている。抽出のポイントを踏まえたうえで決定する。

→事業評価を踏まえた次年度の予算編成に向けた提言書は議会として提出している。

#### 《予算特別委員会》

予算審査の対象となる次年度予算を総括的に審査する。併せて、決算特別委員会からの執行部への提言が次年度予算にしっかりと反映されているかを確認する。

#### 《常任委員会》

予算・決算特別委員会を設置し、議会のチェックサイクルを確立したことにより、前年度決算及び次年度予算に対するチェック機能の強化が図られたが、さらなるチェック機能の強化として、現年度の市政施策（事業）の進捗状況をチェックしていく必要がある。

常任委員会の役割強化として、現年度の各事業の取組の進捗状況をチェックすることで、執行部に対して的確な事業の進捗を促すことができる。

○参考市の事例についての議会と行政評価の関係について、グループ討議の中で出た意見について

#### ■良い点

- ・議会としての意思を執行部に伝えるには、有効である。
- ・予算委員会で出された評価が反映される。
- ・予算決算がしっかり作られている。
- ・議会として提言しやすい内容となっている。
- ・見える化ができています。
- ・二元代表制としての意思決定をしている。
- ・効果的かつ効率的な行政運営を行うために評価システムを入れられる。
- ・主要施策に絞り込んで提言できる。

#### ■懸念点

- ・10名が審査しているが、他の議員の考えが反映されているか心配。
- ・中には理解していない議員もいるのか。
- ・現実的にマンパワーが必要である。
- ・住民に対して説明が難しい。
- ・当局も議会も理解できるかが未知数。
- ・少数の意見が見落とされるかもしれない。
- ・スケジュールとして厳しい。
- ・決算の重要な場としては時間がかかりすぎているのではないか。

○講師からのまとめ

税金の使われ方の監視機能が議会であるので、政策評価をするセンスを議員が持つことが一番である。

#### ■所感

市民に財政の健全状況を分かりやすく示すための研修であったが、公会計の立場から、3級簿記程度の知識が要求されることを学んだ。このため、今年の年末までをめどに、高校の商業科などで学ぶ商業簿記の基本知識を学ぼうと考えた。

複式簿記については当市でも水道課が導入しているが、一般私企業のそれと同じような決算資料を作ることによって、市民に分かりやすい財政を目指していくべきである。